

特集

知ろう・つながろう 渋谷の居場所 ～プロローグ～

新特集記事は各セクションの職員が横断的に関わり連載します。

今回はたまり場ぱれっと職員武井とおかし屋ぱれっと職員松本が“渋谷の居場所”というテーマを選んだ理由と思い、そして今後の流れについてお伝えします。

●テーマを選んだ理由と思い（武井）

居場所と聞くとどんなことをイメージしますか？自分が自分らしくいられる場所、その場所にいることを肯定的に捉えることができる場所だと私は考えています。最近では、本や雑誌でも居場所の特集記事を見かけることが増え、居場所という言葉をよく耳にするようになりました。一方で、〇〇に居場所がないといったように否定的な場面でも使われることもあります。家や職場、学校とはもう一つ別の所に、継続的に参加できる場所があることによって、気持ちになるような気がしています。

たまり場ぱれっとでも、居場所づくり・友達づくりを目的に日々活動を行なっています。たまり場ぱれっとは利用する人にとってどんな居場所であるのか—たまり場ぱれっとの関係者に聞いてみました。「仕事の時とは違って素の自分が出せてリラックスできる居場所」「みんなに会えるから、みんなで手掛けるスポーツ大会があるから参加しています」など、様々な意見を聞くことができました。この先もずっと、たまり場ぱれっとという居場所が利用者・ボランティアともに楽しめる場所であり続けたいと思っています。

現在、たまり場ぱれっとの課題に、利用者の高齢化や新しい参加者が少ないといったことが挙げられます。40年前のたまり場ぱれっと立ち上げ当初から参加している方をはじめ、長年一緒に活動してきた方が多くいます。活動をこれからも続けていくためには、その方々にとっての居場所であり続けることと、新しい参加者の勧誘を積極的に行なっていく必要性を感じています。そして、私が今回渋谷の居場所というテーマを選んだ理由は、たまり場ぱれっとに入職して渋谷には他にも面白い取り組みをしている居場所づくりの団体があることを知り、繋がりたいと思ったからです。

また、たまり場ぱれっとでは障がいのあるなしに関わらず皆が楽しめることをモットーに日々活動を行なっていますが、障がいのある方たちが他の団体や地域ではどのような関わりを持って過ごしているのかを知り、関わりを深めていきたいと思いません。

●テーマを選んだ理由と思い（松本）

今回、渋谷の居場所について書こうと思ったのは、私が昨年度まで次世代ネットワークに所属しており、その経緯で渋谷区内には他にどのような居場所があるのかが気

になったからというのが大きな理由の一つです。次世代ネットワークは渋谷区内の作業所、生活介護施設や就労移行支援事業所で働いている職員が有志で運営しています。20代、30代の若手職員を中心に成り立っており、長く楽しく働くことを目的に、福祉職員の横の輪を広げべく職員交流会や講師の方を招いて様々な研修を行ったりしています。福祉職は横のつながりがあるようで無く、委員会等で他の施設の職員と顔を合わせる機会もあまりありません。これまで、私は神奈川県相模原市や東京都中野区にある社会福祉法人で働いたことがありますが、思い返してみてもそのどちらも外部の団体との繋がり希薄でした。委員会なども役職者が参加することが多く若手の職員は所属することは少なかった記憶があります。加えて、同法人の別の事業所で働く職員とも顔を合わせはするものの、立ち止まってゆっくりと話をする機会もあまりありませんでした。

私にとって働くうえで、職場から少し離れた違う居場所があるというのはとても楽しく、何か困ったことや辛いことがあっても気軽に相談できる、話し合える仲間がいるというのは心強いものなのだということも次世代ネットワークでの出会いを通して知ることができました。色々な人の考えに触れて、その人の考え方や所属先の話聞くことは自分の見識も広がりより良い支援をすることにも繋がるのだと実感しています。

先日、偶然見たNHKのクローズアップ現代の特集(※1)で、会社において部下の心身の状態をフォローする上司のウェルビーイング(=すべてが満たされた状態かつ継続性のある幸福)を保つにはどうすればいいのかについて予防医学者の石川善樹さんが興味深いことを述べていました。「会社以外に居場所をどれだけ持てるのか。居場所がいろんなところにたくさんある人はウェルビーイングを保ちやすいと言われていました。会社では何者かであるわけですが、常にその仮面つてのは辛いわけですよ。時に自分が、何者でもない自分になれる場所があるとか、要するに色々な自分がいるということが大事。例えば昔からよくあるのが近所のスナックとか居酒屋とかで、自分が何の仕事をしているのかわからないけれども居心地良くいられるところ、専門的には“健全な多重人格”(=何者かである自分、あるいは何者でもない自分、色々な自分の内面の多様性)、これがウェルビーイングを保つと言われていました。」これは上司である立場の人達に関してのことでしたが、私は様々な立場にいる人達に当てはまることだと思いました。職場以外の居場所は、例えば自分の家庭だったり学生時代からの友達という時の自分であったり色々なパターンがあると思いますが、その中でも、誰かにとって心地よさを感じられる居場所の一つとしてばれつとがそうであつたらいいし、そのような居場所になれるように私達がつくっていきたいと考えています。

●今後の流れ

今回の特集では渋谷の居場所づくりを行っている団体とつながり、交流を図っていき共同のイベントを実施したり、参加する世代・興味関心も広げたりすることを目指しています。今特集を含め“渋谷の居場所”は全4回でお届けする予定です。

第1回は、地域とのつながりが深いこども食堂を中心に、すでにぱれっととも関わりのある団体に取材をし、また、渋谷区ではどんな取り組みが行なわれているのかを取材をしていきます。余暇や遊びを中心として活動を行なっている団体から地域と連携した実際の取り組み事例を学び、今後の活動に活かしていきたいと思っています。そして、それぞれの取り組みの中で障がいのある方々がどのように関わっているのかを見ていきたいと思っています。

第2回は、前述の次世代ネットワークについて取り上げ、団体が出来た経緯や最近の活動内容について取材をしたいと思えます。また、現在次世代ネットワーク以外にも渋谷区内で活動している会についても取り上げたいと思えます。

第3回は渋谷を飛び越え、渋谷以外の国内で色々な形の居場所を提供している団体・事業所をご紹介します、それぞれの団体のニーズと渋谷のニーズにどのような違いや共通点があるのかを調べます。

第4回は色々な団体を取材したことから導きだされた居場所について考察していきます。取材を通して、各団体が抱えている課題にも着目していき、ぱれっとが抱える

課題やこれからの活動に生かせる点を導き出していきたいと思います。

全4回を上記の内容でお届けする予定ではありますが、取材をしていく中で変更があるかもしれません。温かい目で見守っていただけたら幸いです。また、この特集は松本と武井だけでなく他の若手の職員も巻き込んでいきたいと思っておりますので楽しみにしててください。今回、この特集を書くことによって、自分が知らないだけで、様々な取り組みをしている渋谷の団体を知ることができ、団体同士が繋がって今後もっと面白い取り組みを双方で展開することができるのではないかと、そんな期待で胸がいっぱいです。ぱれっとは設立当初から“人との繋がり”を大事にしていますが、それぞれの居場所を作っている人達が大事にしている思いをこの特集を通じて自分自身も知りたいと思えますし、今この記事を読んでいただいている皆さんにも知っていただきたいと思っています。そしてこの特集を糧とし、ぱれっとという団体を誰もが楽しんで『はたらく・くらす・あそぶ』ことのできる場所づくりに繋げていきたいと思えます。

（たまり場ぱれっと 武井 琴美）

（おかし屋ぱれっと 松本 亜沙子）

（※1 参考：6月28日（水）NHK クローズアップ現代「“幸せ”で業績アップを目指せ 栗山英樹と”ウェルビーイング”」から一部引用）